

作成日：2017年11月 9日（初 版）

改定日：2023年 9月 9日（第2版）

## 安全データシート（SDS）

### 1、化学品及び会社情報

化学品の名称	カーシャンプーSF
会社名	株式会社サクラテック
連絡先	住所 群馬県高崎市福島町 727-15
	電話番号 027-373-8844 / F A X 番号 027-395-8844
推奨用途	自動車ボディー用洗剤
使用上の制限	用途以外に使用しないこと。

### 2、危険有害性の要約

#### 【化学品GHS分類】

【物理化学的危険性】

区分に該当しない（分類対象外）

#### 【健康に対する有害性】

急性毒性（経口）

区分4

急性毒性（経皮）

分類できない

急性毒性（吸入・ガス）

区分に該当しない（分類対象外）

急性毒性（吸入・蒸気）

分類できない

急性毒性（吸入・ミスト）

分類できない

皮膚腐食性／刺激性

区分2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

区分2A

呼吸器感作性

分類できない

皮膚感作性

分類できない

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

分類できない

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

分類できない

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

区分に該当しない

誤えん有害性

分類できない

#### 【環境に対する有害性】

水性環境有害性 短期（急性）

区分3

水性環境有害性 長期（慢性）

分類できない

オゾン層への有害性

分類できない

---

【GHSラベル要素】

【GHS絵表示】



【注意喚起語】

警告

【危険有害性情報】

飲み込むと有害

皮膚刺激

強い眼刺激

水生生物に有害

【安全対策】

使用前にSDSを入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断／手当を受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。

皮膚刺激または発しん(疹)が生じた場合：医師の診断／手当を受けること。

汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

### 3、組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名	含有率 (%)	P R T R 法 対象物質	労働安全衛生法 政令番号	C A S No.	備考
直鎖アルキルベンゼン スルホン酸塩	7.1	第1種指定化 学物質 30	---	27176-87-0	
モノエタノールアミン (2-アミノエタノール)	1.1	第1種指定化 学物質 No.20	表示対象物質 1% 通知対象物質 0.1% 21	141-43-5	皮膚感作性 区分1 ≥0.1% 特定標的臓 器毒性 区分2 ≥1.0%
ヤシ脂肪酸ジエタノール アミド	<1	---	---	68603-42-9	発がん性 区分2 ≥0.1%

防腐剤、その他

### 4、応急措置

- 吸入した場合  
吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合  
汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚は多量の水と石けんで洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
皮膚刺激を生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合  
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 眼に入った場合  
水で数分間注意深く洗うこと。  
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師の診断を受けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合  
医師に連絡すること。  
気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

いずれの場合も、医師への受診時には当該化学品またはSDSを持参する。

---

## 5、火災時の措置

(本内容物は燃焼しないが、包装容器や周辺火災には以下の措置を実施する)

- 適切な消火剤  
粉末消火薬剤、水溶性液体用消火薬剤、霧状水、二酸化炭素、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤  
棒状水
- 火災時の特定の危害有害性  
燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。
- 特定の消火方法  
火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行なう。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備等に散水して冷却する。消火の為に放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないように適切な処置を行なう。
- 消火を行う者の特別な保護具及び予防措置  
消火作業では、適切な保護具（手袋、マスク、メガネ等）を着用する。燃焼ガスには一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。

---

## 6、漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  
作業には必ず保護具（手袋、マスク、メガネ等）を着用する。  
多量の場合は人を安全な場所に退避させる。  
必要に応じた換気を確保する。
- 環境に対する注意事項  
漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材  
少量の場合、吸着剤（土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。大量の水で洗い流す。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから、ドラム等に回収する。
- 二次災害の防止策  
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに、消火剤を準備する。  
床面に漏れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となるため注意する。  
漏出物の上をむやみに歩かない。  
火花を発生しない安全な道具を使用する。

---

## 7、取扱い及び保管上の注意

- 技術的対策  
取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
- 注意事項  
火気厳禁。眼および皮膚への接触を避ける。
- 安全取り扱い注意事項

- 
- 作業場の換気を十分に行なう。  
保護メガネ、保護手袋等の適切な保護具を着用する。  
取り扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 適切な保管条件  
火気厳禁。通気の良い場所で容器を密閉して保管する。
  - 安全な包装容器材料  
製品使用容器に準ずる。

---

## 8、 暴露防止及び保護措置

- 保護具  
呼吸器用保護具：通常の作業の場合は特に必要なし  
手の保護具：不浸透性保護手袋  
顔面の保護具：ゴーグル型または全面保護メガネ  
皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣

---

## 9、 物理的及び化学的性質

物理状態	
形状	: 透明液体
色	: 微青色
臭い	: 原料臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 6.0-8.0 (原液/25°C、調剤時)
動粘性率	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.02g/cm <sup>3</sup> (代表値)
相対ガス濃度	: データなし
粒子特性	: データなし

---

## 10、 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用条件下では、反応性はない。
安定性	: 通常の使用条件下では、安定である。
危険有害反応可能性	: 情報なし
避けるべき条件	: 高温
混触危険物質	: 特になし。
危険有害な分解生成物	: 情報なし。

---

11、 有害性情報（健康有害性）

急性毒性（経口）	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分4に該当。  危険有害性情報:H302 飲み込むと有害
急性毒性（経皮）	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 89.100%含有。 毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。
急性毒性（吸入・ガス）	GHS 定義による気体ではない。
急性毒性（吸入・蒸気）	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 89.100%含有。 毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。
急性毒性（吸入・ミスト）	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 89.100%含有。 毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性／刺激性	加方式が適用できない成分からの判定： その他の刺激性（区分 2/3）成分 $\geq$ 3%のため、区分 2 に該当。  危険有害性情報:H315 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	加方式が適用できない成分からの判定： その他の刺激性（区分 2/3）成分 $\geq$ 3%のため、区分 2A に該当。  危険有害性情報:H319 強い眼刺激
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 89.0%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 89.100%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 88.357%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類

	できないに変更。
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 88.440%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。 毒性が未知の成分を 88.440%含有。 毒性未知成分が 1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。
誤えん有害性	動粘性率が不明のため、分類できないに該当。

#### 12、 環境影響情報（環境有害性）

水性環境有害性 短期（急性）	加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が115.683%であり、濃度限界（25%）以上のため、区分3に該当。  危険有害性情報:H402 水生生物に有害
水性環境有害性 長期（慢性）	毒性が未知の成分を 88.440%含有。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
残留性／分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壌中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。

#### 13、 廃棄上の注意

まとまった量の本製品を廃棄する場合には、産業廃棄物として、事業者自らが処理するか、知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくはその処理を行なっている地方公共団体に委託して処理すること。

#### 14、 輸送上の注意

国際規制 : 航空輸送は ICAO/IATA および海上輸送は IMDG の規則に従う。  
 国連分類 : 国連の分類基準には該当しない。  
 国連番号 : 国連の分類基準には該当しない。  
 国内規制 : 陸上輸送 労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海洋汚染物質：非該当

安全対策：運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめた上で、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなうこと。

## 15、適用法令

### 化審法

：特定化学物質・指定化学物質に該当しない。

### 労働安全衛生法

：特化則 該当しない。

有機則 該当しない。

表示対象物質 モノエタノールアミン (2-アミノエタノール)

通知対象物質 モノエタノールアミン (2-アミノエタノール)

指針・通達物質 該当しない。

### 化学物質管理促進法 (P R T R法)

：直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩

モノエタノールアミン (2-アミノエタノール)

### 毒物及び劇物取締法

：該当しない。

### 消防法

：該当しない。

### 水質汚濁防止法／水素イオン濃度

：該当しない。

## 16、その他の情報

安全上重要である  
がこれまでの項目  
名に直接関連しな  
い情報

本製品に当社が推奨した材料以外のものと混合したり、当社が認めた使用以外の特殊な条件で使用するときには、使用者において安全性を確認してください。また本データシートに記載のデータは保証値ではありません。

記載内容は、本書面の作成時または改訂時において、製品及びその組成に関する最新の情報（危険有害性情報、取り扱い情報等）を収集して作成しておりますが、すべての情報を網羅したわけではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行ないます。

### 問い合わせ先

会社名

株式会社サクラテック

連絡先

住所 群馬県高崎市福島町 727-15

電話番号 027-373-8844 / F A X 番号 027-395-8844

### 日本中毒情報センター

大 阪 072-727-2499 24時間

つくば 029-852-9999 9時～21時

---

改訂の記録

2017年11月 9日 (初 版)

2023年 9月 9日 (第2版)

引用文献

- JIS Z 7252 : 2014/2019 GHSに基づく化学品の分類方法
  - JIS Z 7253 : 2012/2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
  - 14705の化学商品[化学工業日報社]
  - 化学品安全管理データブック[化学工業日報社]
  - 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)[化学工業日報社]
  - 家庭用消費者製品におけるGHS実施ガイダンス[日本石鹼洗剤工業会]
  - 混合物のラベル・SDS作成講座[情報機構]
-